

アンプシミュレーターの使い方②

アンプヘッドとキャビネットの設定

Guitar Rig の構造



【Presets】からはメーカーが作成したプリセットが
選択でき【Components】からは1から好みの
セッティングを作成できる。

以下の3つのコンポーネントで
成り立っている

アンプヘッド

キャビネット+マイク

各種エフェクト

エフェクトはアンプの前段でも後段でも、
ヘッドとキャビの間でも、
どこでも自由にルーティングが可能！

空間系、モジュレーション系など
ステレオエフェクトをアンプ前段に繋いだ場合は
モノラル、後段に繋ぐとステレオになるので注意。

アンプヘッドの選び方①



歴代の有名アンプをベースにモデリングされているが、メーカー名、モデル名などは変更されて表記

代表的なモデルをチェック！

モデル名	ベースになった機種
AC Box	VOX AC-30
Lead 800	Marshall JCM800
Twang Reverb	Fender Twin Reverb
Jazz Amp	Roland JC-120
Gratifier	Mesa/Boogie Dual Rectifier
Van 51	Peavy 5150

Plex、Jump は Marshall系
Tweed は Fender系

アンプヘッドの選び方②

AC VOX

VOX社 AC-30(コンボアンプ)をシミュレート。

クリーンからドライブまでナチュラルなサウンドのイギリス製アンプ。

Marshallと比べるとウェットでよりブリティッシュなサウンド。

クリーンならビートルズ、ドライブならクイーンのサウンドを彷彿。

オーソドックスなポップス～ロック向け。

Lead 800

Marshall社 JCM-800(スタックアンプ)をシミュレート。

こちらもイギリス製アンプだが、VOXと比べるとカラッとした

アメリカンなサウンド。他の「JUMP」や「PLEX」なども

Marshallの他モデルをシミュレート。ゲインや方向性の違いはあるが

総じてドライブ系に強くロック～ハードロック向け。

アンプヘッドの選び方③

Twang Reverb

Fender社 Twin Reverb(コンボアンプ)をシミュレート。

クリーンが美しいチューブらしいコンボアンプ。ロックンロールやブルースからポップスまで、クリーンサウンドならこれで決まり。他の「Tweedman」や「Tweed Deluxe」などもFenderの他モデルのシミュレート。総じてクリーン～クランチに強いナチュラルなサウンドのコンボアンプ。

Jazz Amp

Roland社 JC-120(コンボアンプ)をシミュレート。

こちらは真空管ではなくトランジスタアンプ。真空管のような歪み方はせず圧倒的に歪みのないクリーンサウンドを作る事が可能。このアンプの売りである世界初のコーラス回路もシミュレートされているが、ストンプで挿した方が再現性が高い。80s以降のポップスやAORなどによく合う。

アンプヘッドの選び方④

Gratifier

Mesa/Boogie社 Dual Rectifier(スタックアンプ)をシミュレート。
ダウンチューニング、ハイゲイン系に強いアンプ。ダウンチューニングでも音がぼやけにくく、ヘヴィメタル系のギタリストに圧倒的人気がある。

Van 51

Peavy社 5150(スタックアンプ)をシミュレート。
ハードロックバンドVAN HALEN のギタリスト、故エディ・ヴァン・ヘイレンのために開発されたモデル。初期はよく歪むよう改造したMarshallを愛用(前述のJUMPはそのモデルのシミュレート)していたが、後年はこちらを愛用。強く歪ませても芯のあるサウンドでモダンなメタル系のギタリストに愛用者が多い。

キャビネット/マイクの選び方

キャビネット類はコンポーネントの「Cabinet」から選べる。
Guitar Rig で選べるのは以下の2つ。

Matched Cabinet

アンプヘッドにマッチしたキャビネットが選べるが、必ずしも同名の物を選ぶ必要はなく、MarshallのヘッドにFenderのキャビを合わせるという事も可能。2種類のマイクのバランスやエアー感の調整もできる。

Control Room / Control Room Pro

様々なキャビネットやマイクの種類、位置などを自由に組み合わせ可能。
「Control Room」と「Control Room Pro」の違いは設定できるマイク本数。
「Control Room Pro」では8チャンネル分のマイクが用意されており、それらをミキサー状で設定が可能。とことん拘って理想のサウンドを追求可能。

**音作り、マイキング等になれていない場合は、
マッチドキャビネットから始めよう！！**

キャビネット/マイクの選び方

Control Room Pro での設定



- チャンネル+ミキサー
8chまで複数マイクを立てて、ミックス可能
- キャビネット選択
様々なキャビを選択可能
スタックには4x12、コンボには1x12、2x12などが一般的
- マイク選択
様々なマイクを選択可能
オンマイクにはSM57等のダイナミック、オフにはコンデンサが一般的
- マイク位置
CAP、CAP EDGE、CORN の3カ所から選べる
一般的にはCAPの前に立てる

マイク



選べるマイクは5種類

- ダイナミック(2種類) パンチのある音
- コンデンサ(1種類) 太くレンジの広い音
- リボン(1種類) 繊細な音

マイク位置は3種類

- CAP
- CAP EDGE
- CONE

CAPの真ん中が最も抜けが良く音も太くなる。

CORNの端に行くほどまろやかな音になるが、低音も減る。

基本はCAPの真ん中を狙い、キンキンする場合はCONE側に動かすと良い。

一般のRECではCAPの前にSM57等のダイナミックマイクを立てて録音することが最も一般的。

アンプシミュレーターの操作法

スピーカーの数、サイズ

- 1x12 (コンボタイプ)
12インチのスピーカーが1発
- 2x12 (コンボタイプ)
12インチのスピーカーが2発
- 4x12 (スタックタイプ)
12インチのスピーカーが4発

etc

**コンボタイプは箱鳴り感があってウォーム、
スタックタイプはレンジが広く迫力があるサウンド。**